

Profile

武田 忠善 Takeda Tadayoshi クラリネット

1975年国立音楽大学卒業、その後フランス国立ルーアン音楽院にて巨匠ジャック・ランスロの許で研鑽を積み、同音楽院にて一等賞を得て卒業。1977年パリ・ベラン音楽コンクール第一位、1978年第47回日本音楽コンクール第一位、続く第35回ジュネーブ国際音楽コンクールでは日本人初の入賞をはたし銅メダルを受賞。古典から現代音楽に至る幅広いレパートリーを持ち、楽器の可能性をも越えた甘美な音楽性とその妙技により多くの人々を魅了し続けるとともに、我が国最高峰のソロ・クラリネット奏者として、その地位を不動のものにしている。

教育面においても、多くの逸材を育てる他、パリ国立高等音楽院教授ミシェル・アリニョン氏の招きに応じて同音楽院において東洋人クラリネット奏者としてはじめて、マスタークラスを行う。その他、アメリカ、シンガポール、韓国、台湾、スペインに招聘されるなど、正統なフランス派を伝える事の出来る数少ない演奏家、教育者である。国立音楽大学学長・特任教授。

永峰 高志 Nagamine Takashi ヴァイオリン

1980年東京藝術大学卒業、NHK交響楽団に入団。第1ヴァイオリン次席奏者、第2ヴァイオリン首席奏者として活躍する。2012年NHK交響楽団より同団への功績が認められ第32回有馬賞を授与される。2015年同団を退団する。

現在、オーケストラとの共演やリサイタル等ソリストとして、ウォルフガング・サヴァリッシュ、ペーター・シュミードル、ヴェンツェル・フックス各氏との共演等室内楽奏者として活躍している。また、新日本フィルハーモニー管弦楽団等のオーケストラにゲストコンサートマスターとして出演し、好評を得ている。近年は、シトウトガルト室内管弦楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団等を指揮し好評を得るなど、指揮者としても活動の場を広げている。現在、国立音楽大学教授、洗足学園音楽大学客員教授、東京藝術大学非常勤講師として後進の指導にあたっている。また2010年より岩手県久慈市文化会館(アンバーホール)の芸術監督を務めている。

2020年7月25日マイスター・ミュージックよりアルバム「ロマンス」をCD・LPレコード・ハイレゾ配信のメディアで同時リリースした。ピアノは久元祐子氏。

使用楽器：ストラディヴァリウス1723年製「ヨアヒム」(国立音楽大学所有)

青木 高志 Aoki Takashi ヴァイオリン

桐朋学園大学卒業。ヴァイオリンを江藤俊哉、江藤アンジェラ両氏に師事。第57回日本音楽コンクール入選。第60回読売新人演奏会に出演。

1990年より東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターとして、また紀尾井シンフォニエッタ(現紀尾井ホール室内管弦楽団)のメンバーとしても活躍した。1998年より1年間、アフィニス文化財団海外研修員としてウィーンに留学し、ウィーンフィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター、ライナー・ホーネック、ウィーン市立音楽院において同コンサートマスター、ウエルナー・ヒンク両氏に師事。室内楽奏者としても活躍し、1992年~2001年まで『モルゴア・クアルテット』のメンバーとして、シオスタコフヴィチの弦楽四重奏曲全15曲を演奏、東芝EMIより4枚のCDをリリース。また、デイズニーレコードより「デイズニー・オン・クラシックラブ&バラードアコースティック・セレクション」をリリースするなど、各方面で活発な活動を行っている。1998年、第10回村松賞受賞。

2015年、25年間に在籍した東京フィルを退団し、国立音楽大学教授として後進の指導に力を注ぐと共に、The Orchestra Japan コン서트マスターとして「デイズニー・オン・クラシック」を中心とした活動を行っている。

2022年2月、ナミ・レコードよりCDアルバム「Poésie ~詩(うた)を奏でる」をリリース。

使用楽器：ストラディヴァリウス1719年製「レイザック」(国立音楽大学所有)

内藤 賢吾 Naito Kengo ヴィオラ

国立音楽大学附属小・中・高等学校を経て、国立音楽大学ヴィオラ専攻卒業。同大学アドバンスコース修了。

ヴァイオリンを橋本千稲、奥田雅代、徳永二男の各氏に、ヴィオラを川崎和憲、松井直之の各氏に、室内楽を漆原啓子、風岡優の各氏に師事。アジアユースオーケストラ2013に参加し、アジア6カ国9都市をツアーで回る。北九州国際音楽祭ではオーケストラに複数回にわたり出演するほか、アウトリーチで室内楽公演も行う。

国立音楽大学東京同調会新人演奏会に出演。首都圏9音楽大学から選抜された、音楽大学フェスティバル・オーケストラにて首席奏者を務める。

現在、様々なオーケストラへの賛助出演、室内楽の自主公演などにも精力的に取り組み、全国各地で演奏する傍ら、Royal Music Gardenでヴィオラ講師を務めるなど活動の幅を広げている。

足利カンマーオーケスター、ヴィオラ奏者。国立音楽大学講師。

阪田 宏彰 Sakata Hiroaki チェロ

国立音楽大学卒業。YAMATO String Quartet 代表。大阪国際室内楽コンクール入選。NHK-FMリサイタル、ニッポン放送公開録音「新日鉄コンサート」などに出演。

CD「山田耕筰 室内楽全集」を始め、日本民謡・タンゴ・ロックなど幅広いジャンルのCDをリリース。

群馬交響楽団、大阪センチュリー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、神奈川フィルハーモニー、山形交響楽団などの客演首席奏者も務めてきた。桜美林大学講師。

久元 祐子 Hisamoto Yuko ピアノ

東京藝術大学卒業、同大学院修了。ウィーン放送交響楽団、ラトヴィア国立交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、ウィーン・サロン・オーケストラ、ベルリン弦楽四重奏団など内外のオーケストラや合奏団と多数共演。

音楽を多面的に捉えることを目指したレクチャー・リサイタルは朝日新聞・天声人語にも紹介される。ブロードウッド(1810年頃製)、ベーゼンドルファー(1829年製)、プレイエル(1843年製)、エラーール(1868年製)などの19世紀オリジナル楽器を所蔵。それら歴史的楽器の演奏・研究にも取り組む。シヨパン生誕200年記念年には、全国でプレイエルの演奏会に出演し軽井沢・大賀ホールにおいて天皇后(現上皇皇后)両陛下ご臨席のもと御前演奏を行う。2011年ウィーンでのリサイタルが高い評価を受け、ベーゼンドルファー・アーティストの称号を受ける。イタリア国際モーツァルト音楽祭に度々招かれリサイタルを開催。

「優雅なるモーツァルト」(毎日新聞CD特薦盤、レコード芸術特選盤)などCD16作をリリースし、「ベートーヴェン:テレゼ、ワルトシュタイン」はグラモフォン誌上「どこからどう考えても最高のベートーヴェン」など高い評価を受ける。園田高弘賞、毎日21世紀賞などを受賞。著書に「モーツァルトのピアノ音楽研究」(音楽之友社)、「シヨパンとプレイエル・ピアノ」(学研プラス)など多数。

国立音楽大学及び大学院教授、ベーゼンドルファー・アーティスト。

<https://www.yuko-hisamoto.jp/>

たましんRISURUホール

〒190-0022 東京都立川市錦町3-3-20

- JR立川駅南口より、すずらん通りを直進。徒歩13分
- JR南武線西国立駅より、徒歩7分
- 多摩モノレール立川南駅より、立川南通りを直進。徒歩12分

TEL. 042-526-1311

受付時間9:00~20:00/第3月曜(祝日の場合は翌平日)休館

